

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600228		
法人名	医療法人 井上内科病院		
事業所名	グループホーム萩の家		
所在地	三重県津市久居井戸山町751-1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町提出日	平成23年 2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600228&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 1 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリテーションを含んだレクリエーションにより、皆さん生き生きと楽しんでいる事ほもとより、地域との触れ合いを目的とし、6人全員での外出行事が出来る事を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は野菜畑と梨園、片方には中学校。関連する社会福祉法人(特養、訪問、通所介護、居宅介護支援事業等)も隣接した複合施設エリアの中である。母体の病院を中心に老人保健施設と併設された定員6名、医療法人のグループホームである。数年前に病院より異動した管理者(看護師)始め経験豊富な職員が多い。何れの職員も穏やかな言葉がけでホームの理念(思いやりの心)を共有し熱心な介護と支援に努めていて利用者の表情も非常に明るい。週1回理事長の往診も受けているなど、日々の健康管理や緊急時、終末期の体制も構築されている。本人・家族にとっても安心して暮らせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、他人のことを「思いやる」ことに重点をおいて理念としている。	地域との関係を大切にしながら「思いやりの気持ちで楽しい生活を心がける」と言うホームの理念を、全職員が共有し実践していて、利用者の表情も非常に明るい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中、「野菜がとれた」と地域の方々もいつでも立ち寄っていただけるグループホームとなっている。	地域の方々から野菜の差し入れや、地域の催しへの誘いを受けている。またボランティアや近隣中学校の協力(レクリエーション)も得ている。一方、学園実習生の受け入れを行うなど地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催。中学生の生徒、地域の方々、ご家族の方々に対し認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の方々の協力を得てサービスの向上につながる様に、アドバイスを頂き運営に活かしている。	地域住民の代表者、家族代表者、行政職員およびホーム役職員で構成され、年6回を目処に(現在4回)実施している。時には勉強会も取り入れ、地域の理解と協力を得ながらサービスの向上に繋げつつある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の問題等一緒に考え改善に向けて協力して頂いている。	管理者や母体法人の職員が役所へ出かけた都度、担当職員に面談し状況報告と情報の入手に努めている。先般のキャラバンサポート研修でも市職員の協力を得ることが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはならない事をよく理解しており、勉強会等にも意欲的に参加している。	職員は言葉がけを始めとした身体拘束の具体的な内容、利用者に対する弊害も良く理解していて、日々拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしてはいけない事をよく理解している。施設内では虐待は見受けられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用する方は入居されていませんが、成年後見制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話を持つ事で、意見、不備、苦情等早急に把握し解決できる様に、心掛けている。	何れの家族も週1回以上の面会がある。職員は常に家族から意見や要望を引き出すように心がけ、今では何でも話してもらえる関係が出来ている。出された意見は即、全員で話し合い対応。結果も報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、運営に反映している。	日頃から管理者および職員は気楽に意見交換が出来る状況にある。また、毎月の連絡会議、朝夕のミーティング、法人(母体)代表者会議等で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員に資格取得の声掛けを支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲的に研修に参加し、職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流により、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームの見学、面談の機会に事前に不安な事、求めている事等を聞き取り、本人自身が十分理解できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも当ホームの見学時、面会時に困っている事、不安な事、求めている事等を十分に聞ける機会を作り、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、本人がよりよい生活が過ごせる様に、協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の皆さん、共によりよい関係が作られていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅サービスである事を念頭におき、ご家族、お友達、ご親戚の方々が自由に出入りして頂ける様に支援している。	利用者の生活習慣、能力、地域との関わりを大切にして、一人ひとりの希望に添った支援をしている。また親戚の方々、時には友人の面会を受ける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	6人という少人数であり、家族同士の様な関わりを感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の訪問が有ったり、連絡をしたりもったりして、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、一人ひとりの思いや希望等を把握して、よりよい生活が送れる様に努力している。	本人の生活暦、その日の状態や気分をくみ取り、出来る限り希望や意向に副った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を知るうえでの大切な資料と考え、ご家族の方々にも協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを知るうえで、その人にあつた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの意見を反映し、定期的に職員と検討し、介護計画を作成している。	利用者毎に本人・家族の思いを聞き、職員全員で意見交換をし現状に即した介護計画を作成している。日常、職員は利用者全員に気配りをしながらも、一応、1対1の担当を決めていて毎月見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受持ち制により、気付いた点をチェックし、全員でモニタリングを行っている。また必要に応じて新しい介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医院への受診、行きつけの美容院への付き添い、買い物等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア・文化・教育機関等の協力を得て、支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人井上内科病院であり、安心して適切な医療が受けられている。	経営母体が医療法人であり、毎週1回理事長の往診を受けている外、特別医療や緊急時における体制も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、健康管理と医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、ご家族にとって、今のような支援が必要なのかを見極め支援している。入院時、医師・管理者より十分に説明して、安心して治療を受けられる様に支援している。また医療機関と連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期のあり方について話し合いを持ち、要望に応じた対応をしている。	利用者の終末期については本人や家族の要望と、かかりつけ医の意見を聞き、出来る限り希望に沿う方針である。(入居時に説明し、また、状況変化あれば、その都度話し合う事になっている)これまでにホームで最期を看取った方は一名。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時にスムーズな対応が出来る様、話し合いを重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を年2回行っている。今年は、ご家族の参加、三重県地域密着型サービス協議会開催の三重県一斉防火訓練を行っている。	訓練はホームで年2回、法人全体で(消防署の協力を得て)1回行っている。現在の非常通報器は法人本部への通報のみであるため消防署へ直通のもの、また、非常灯の設置も考慮中である。	周辺は、病院及び医療・社会福祉法人ビル、中学校、梨園や畑で住宅街には少し距離がある。特に手薄な人員体制となる夜間における各種災害(特に火災、地震等)への入念な対策と確認(訓練後の問題点の追及、マニュアルの整備等)を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女共同生活の場で有る為、排泄や入浴に関するケアには十分配慮を心掛けている。また言葉によるプライドを傷つけない様に気を付けている。	男性2名、女性4名の共同生活の中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にした支援を行っている。排泄時、入浴時は特に気配りをしている。また個人情報の取り扱いも適正である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の力に合わせた自己決定に寄り添って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大切に、個別ケアの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の着替え等、希望に添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、希望も取り入れながら献立を決めている。後片付けは職員と共に行っている。	熟練調理師のもと利用者の好みに合わせた献立で彩りも良く品数も多く美味しい。下拵えや盛り付け、配膳、後片付け等、利用者も一緒に行っていて、食事風景も会話が弾み非常に和やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量を把握し、能力に応じて食事摂取介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜通してタイミングを見計らってトイレ誘導している。	利用者毎の排泄記録や表情により職員は出来るだけ自立に向けた支援をしている。現在、紙パンツ、尿パットの使用者は有るがオムツ使用者はない。また夜間ポータブルトイレ使用者は3名ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしたり、水分補給を十分取る様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回となっているも、一人ひとりの入浴の希望、タイミングに合わせて対応している。	入浴日は週3回(月、水、土)の概ね3時から5時にしているが、利用者の希望や必要時は、それぞれ状況に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点を置き、生活リズムを整えゆっくり休んで頂ける様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬処方に用法が記入されており、職員は理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々様々なレクリエーション活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の活動参加、散歩等戸外に出る支援をしている。	愛犬を連れて、自然環境に恵まれたホーム周辺の散歩、日向ぼっこ、買い物は日常的に行っている。また月1回程度、車による遠出を取り入れた外出支援をしている。(季節毎の花見、近隣都市の公園、お寺参り、家族同伴で日帰りの温泉旅行など)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、お金の管理を任せているが、基本的にはご家族の考えを優先して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使って頂いたり、葉書・切手の用意、手紙の投函支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面した居室には太陽が十分に入り、居心地のよい共用空間となっている。	室内は明るく換気も良好である。家具調度品も家庭的であり、テレビの前にはソファを置くなど居場所の確保もされている。所々に季節の花、鉢物が置かれ壁には絵画や手づくりの作品で違和感なく装飾。見当識にも配慮され落ち着いて暮らせる工夫をしている。愛犬も利用者の心の癒しに一役買っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や長椅子などを置いて、利用者同士でゆっくりと会話できる空間を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には馴染みの家具などを置き、本人が居心地良く暮らす様、工夫している。	全室南側で日当たりよく換気も良い。押入れ、ベッド、エアコン、洗面台が設置されている。利用者は、各々自分の使い慣れた物や好みの物を持ち込み居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持っている力を十分に発揮し、自立した生活が営める様、工夫している。		